

12/20
5頁

窓口負担の検討継続

政府、医療扶助削減に執着

18日の加藤勝信厚生労働相と麻生太郎財務相による2018年度予算に関する閣僚折衝で、生活保護で治療や薬の処方を受ける医療扶助に関して、くり返し診察を受ける（1頻回受診）生活保護利用

者の窓口負担の導入について、「引き続き検討を行う」と確認しました。

窓口負担導入は医療扶助費の抑制を狙ったものです。

窓口負担導入をめぐるっては、生活保護制度

の見直しを議論してきた社会保障審議会の専門部会で、支援の現場にたずさわる人や研究者が「支援を受ける人からの」信頼を損なう「必要な医療が抑制される」などと強く反対を表明。同部会が

まとめた報告書（15日）にも「反対する意見が多数」と盛り込まれています。

閣僚折衝での窓口負担導入の「検討継続」の確認は、現場や専門家の声を無視して生活保護費削減に執着する安倍政権の姿勢を示すものです。